

農産物の流通 や地域間交流 のために



現在整備されている美濃東部農道のうち、下呂市金山町桐洞新田地区と関市上之保鳥屋市地区を結ぶ約700メートルの「下呂関トンネル」を含む2.4キロの区間が完成し、両市の関係者ら70人が出席

して開通式が開催されました。式典では、テープカットとくす玉割りを行って開通を祝いました。恵那市から郡上市までを結ぶこの美濃東部農道は平成24年度の完成を目指しています。

あんな事、こんな事



ザリガニ釣って希少魚守れ！

黒屋の天王池で、地域固有の希少魚「ウシモツゴ」の観察と、在来生物の生態系を守るための「ザリガニ釣り」が開催され、地元の親子連れなど約80人が参加しました。約2メートルの竹に凧糸をつけた釣りざおにエサのスルメをつけてたらしめます。ザリガニが釣り上げられると参加者は歓声をあげて喜びました。2時間ほどで約280匹釣れました。

放流会場を美しく

「第30回全国豊かな海づくり大会」の放流会場となる池尻の長良川河川敷で、フェザー安全剃刀株式会社の従業員の皆さん160人が清掃活動を行いました。参加者らはゴミ袋を手にゴミを拾ったり、河原の雑草を引き抜いたりし、草刈り機で草を刈る姿も見られました。堤防道路の草引きも行い、約2時間で河川敷はきれいになりました。





新芽の香りさわやかに

毎年恒例の上之保中学校全生徒による茶摘みが行われました。地元のボランティア8人を講師に招き「一芯三葉」の茶摘みの指導と実演のあと、生徒は黙々と茶摘み作業をしました。今年の収穫量は約95キ口で、製茶工場で加工されて約18キ口のお茶が出来上がるそうです。同校では1月に初釜会を開催し、地元の方を迎えて交流を深める予定です。

秋の収穫を楽しみに

洞戸市場の生きがいふれあい農園で、洞戸小学校4～6年生の児童63人が、晴天のもと田植えを体験しました。児童らは6つの班に分かれて、関市老人クラブ連合会洞戸支部の会員15人から指導を受け、ぬかるんだ足元に苦勞し、泥だらけになりながらも、一生懸命にいねいに約530平方メートルの水田にもち米の苗を手で植えていきました。



交通ルールを守ろう

安桜小学校で交通安全教室が開催され、全校児童536人が学年ごとに分かれて参加しました。同校PTA交通安全委員会の保護者20人が交差点に立ち、1～2年生は歩いて、3～4年生は自転車で実際に道路に出て、信号交差点での横断歩道の安全な渡り方などを学び、5～6年生は自転車運転に関する20分程度の映画を見て交通ルールを学びました。

いざというときのために

板取中学校1年生10人が、中濃消防組合救急救命士や「いのちをつなげる会」の会員から心肺蘇生法とAEDの講習を受けました。生徒らはトレーニングキットを持ち帰り、講習で身につけたことを2人以上に教えます。板取中学校を皮切りに、今年度も市内11中学校の1年生が、命の大切さを学ぶ事業として、心肺蘇生法とAEDの講習を受けます。



こぼれ話



4月、5月は鵜の検診、鵜飼開きなど小瀬鵜飼に接する機会が多くありました。瀬尻小学校3年生の校区探検では、児童たちが「鵜の家」に訪問し「鵜どうしてケンカするの」「どれぐらい潜れるの」「何匹ぐらい魚がとれるの」など、児童たちの質問に対して鵜匠さんが、鵜の種類や体の特徴、鵜の健康状態の判断方法などのほか、「川の環境が変わってきて、鮎が減ってきている」ことなど、子どもたちの質問にわかりやすく答えて

いました。つつい私も聞き入ってしまいました。

また偶然、舟大工さんにお会いすることができ、あの長さ幅ならではの鵜舟としての性能の高さや、設計図もないことから大変苦勞されたこと、釘に関する技術的な話やコストなどの貴重な話と、舟を造る仕事があるわけではなく大変だという話も聞きました。

鵜飼を通じて漁法の伝統はもちろん、舟を造る技術や河川の問題など、いろいろな事を知ることができました。